

2021 年度第 1 回 SPring-8 ユーザー協同体評議員会 議事録

日時：2021 年 4 月 19 日(月) 15 時 00 分～15 時 30 分

場所：WebTV 会議

出席者：木村昭夫 (SPRUC 会長)、尾嶋正治、北川進、北村祐二、黒岡和巳、坂田修身、鈴木孝尚、高田昌樹、田中義人、林和志、水木純一郎、宮川篤、綿貫 徹、朝倉清高、足立伸一、有馬孝尚、伊藤廉、片山芳則、岸本浩通、北川 宏、久米卓志、中川敦史、西原克浩、西堀英治、原田慈久、船城健一、水牧仁一朗 (以上、評議員)

本間穂高、大和田謙二、若林裕助、今泉公夫、竹中幹人、三村功次郎、久保田佳基、松村大樹、藤原秀紀、松下智裕 (以上、幹事)

坂川琢磨 (SPRUC 事務局)

山口章、櫻井吉晴、大端通、木下豊彦、辻本繁樹、中村潤、伊藤博幸 (以上、オブザーバー)

- 1) 議事に先立って木村会長より挨拶があった。松下幹事より 2021 年度 SPRUC 評議員名簿が示された。(資料 1) 加えて、前回議事録の確認があり、評議員等から質問等はなく承認された。(資料 2)

報告事項

- 1) 木村会長より資料 3 に基づいて 2020 年度行事実施概要の報告があった。昨年度の第 3 回評議員会までの行事については報告済みであることを踏まえ、本日は 3 月 5、6 日に開催された第 3 回 BLs アップグレード検討ワークショップに関する内容について詳細な説明があった。
- 2) 三村幹事より 2020 年度研究会活動状況が報告された。(資料 4) コロナ禍の中、23 件の会合がオンライン開催された。その中には JASRI が主催する先端利用セミナーに SPRUC 研究会から講師を引き受けたものや、SPring-8 先端利用技術ワークショップとして JASRI と共催で実施されたものもあることが説明された。また、SPring-8/SACLA 先端利用セミナーの基礎編が 5 月以降に開催されることが紹介された。
 - ・ JASRI 木下利用推進部長より、SPring-8/SACLA 先端利用セミナーが好評であること、今後も多くの参加者を受け入れる体制を取ることで補足された。また、今後もセミナーを継続するにあたり、SPRUC 研究会から講師推薦の依頼があった。
- 3) 三村幹事より 2020 年度動向調査報告書の説明が行われた。(資料 5) 2020 年度は従来の 3 件の重点項目に加え、新たに危機管理対策の項目を設けてコロナ禍でのユーザーの動向について調査を行ったことが報告された。この評議員会後に、SPRUC の HP に会員限定で公開し、会員にはアナウンスする予定であることが報告された。
- 4) 木村会長より 2020 年度の理研・JASRI・SPRUC 3 者会合が 4 回開催された旨報告が行われた。(資料 6) 直近の 4 月 12 日の第 17 回 3 者会合では、第 3 回 BLs アップグレード検討ワークショップの報告を行い、SPring-8 シンポジウム 2021 の開催計画および利用制度の見直しと分野融合研究、Science Promotion Board (SPB) に関する

懇談が行われた。

審議事項

- 1) 木村会長より令和 2, 3 年度 活動方針について説明があった。(資料 7) 基本的に令和 2 年度に提示したものを踏襲し、分野融合型研究については、昨年度の時点では議論が思うように進んでいないこともあり、意見交換の場を通してモディファイする可能性がある旨の説明があった。
- 2) 木村会長・松下幹事より SPRUC の組織体制について説明があった。(資料 8) 2021 年度の組織図、代表機関・機関代表、会長・副会長・幹事、各委員会、ならびに顧問会議・顧問名簿について説明があった。
- 3) 木村会長より SPRUC が後援している第 21 回 SPring-8 夏の学校に関する説明が行われた。(資料 9) 今年度の校長は藤原明比古先生 (SPRUC 評議員) にお務めいただき、開催期間は 7 月 11 日 (日) ~ 14 日 (水)、申し込みの締め切りは 5 月 28 日 (金) 17:00 であることが説明された。
- 4) 木村会長より SPring-8 シンポジウム 2021 開催に関する説明が行われた。(資料 10) テーマは 3 者会合で理研・JASRI 側とも協議して「~ SPring-8 将来像からのバックキャストリング~」とすること。期間は 9 月 17 日 (金)~18 日 (土) で、前年と同様に SPring-8 普及棟をメインステーションとしてオンライン開催の予定すること等説明があった。
- 5) 木村会長より 2021 年度の Young Scientist Award 募集に関する説明が行われた。(資料 10) 募集期間は 4 月 1 日 (木) ~ 6 月 3 日 (木) まで。西堀英治先生 (行事幹事兼評議員) が担当し、尾嶋正治先生 (評議員) を委員長とする選考委員会で審査する事等の説明があった。松下幹事から、今回から年齢制限が 35 歳以下と厳密化されたとの補足があった。
- 6) 松村幹事より第 5 回 SPring-8 秋の学校の準備状況について説明があった。(資料 11) 今年度 5 回目となる秋の学校は 9 月 5 日 (日)~8 日 (水) の実施を予定し、募集人数は 40 名程度。参加費 20,000 円 (学生は免除) は、SPRUC から依頼する講師の旅費に充てられる。コロナ対策として 10 数個の実習を用意し、各実習の定員を 3, 4 名の少人数で実施すること等の説明があった。
- 7) 久保田幹事より 2020 年度決算について説明が行われた。(資料 12) 収入 (主に JASRI との協力協定に基づく活動資金、秋の学校の参加費) および支出 (主に SPring-8 シンポジウム、BLs アップグレード検討ワークショップ、秋の学校講師旅費、経理外注費)、繰越金について説明があった。また SPring-8 シンポジウム決算について、昨年 9 月に修正が認められた予算内に納まったことが報告された。加えて JASRI からは、SPring-8 シンポジウムや秋の学校以外にも SPring-8/SACLA 先端利用セミナー・ワークショップにおいてサポートがあった旨が説明された。
- 8) 久保田幹事より 2021 年度予算案の説明が行われた。(資料 13) 予算案は昨年度実績を元にして作成され、収入 (JASRI からの活動支援金、秋の学校参加費) および支出 (SPring-8 シンポジウム、研究会, BLs アップグレード検討ワークショップ、秋の学校講師旅費、経理外注費、Google Workspace アカウント料) の各項目および、繰越

金については、増減がない計画であることが説明された。また、SPring-8 シンポジウム 2021 の予算案について、昨年度実績を基にしているが今回は 2 日間の開催を予定しているためオンライン設備の費用が増えているとの説明があった。

- 9) 以上 2)~9) の項目が承認された。なお、1) の分野融合研究については、懇談事項として意見交換を継続することとした。

懇談事項

- 1) 木村会長より分野融合研究、Science Promotion Board (SPB) と利用制度の見直しについて説明が行われた。(資料 14) 新分野開拓課題について、JASRI での利用制度見直しにおいて、発展的に解消しようとする案が出ていることが説明された。新分野開拓課題は、SPRUC が施設に提案することで新分野創成利用課題として始まったものであるが、直近の課題が 2020A 期で終了しており、その後の新たな提案に至っていない。一方、新しい分野を作っていく動きに変化はなく、Science Promotion Board (SPB) が設けられており、SPB と分野融合との関連も考えて行く必要がある。この様な中、新分野開拓課題は一旦やめ、長期成果優先利用や成果専有、SACLA/SPring-8 基盤開発プログラム等に吸収される形で分野融合を進めていくとの説明があった。
 - ・ JASRI 木下利用推進部長より、以下の補足説明があった。利用制度の見直しは、文科省からの「現状の制度が複雑化している」、「放射光初心者へのバリアを下げよ」との指摘を受けて検討を開始した。先日の BLs アップグレード検討ワークショップでの後藤部門長の新利用制度の提案は中間報告である (JASRI の中でも公認された案にはなっていない)。今後、各選定委員会の意見を踏まえながら JASRI 案をまとめていく。新分野開拓課題は新分野創成課題から見直しされた後も分野融合に沿った課題提案が無い状況にあり、具体的にどの様に行えば良いのかという点が問われている。
 - ・ 木村会長より、以下の補足説明が行われた。幹事会で意見交換を行い、産学連携を踏まえた新分野の提案や議論は SPB で行われるとの理解から、新分野開拓課題の発展的解消について強く反対はしないという意見が大勢を占めた。SPB で議論されたことに SPRUC が協力できるならば、またそこで議論を重ねて何か考えれば良いだろうという意見があった。
 - ・ 尾嶋評議員より、会長が活動方針で述べた分野融合に関する内容と、分野融合研究という仕組みを発展的に解消する点が適合しているかという質問があった。木村会長から、活動方針は前年度のものでありマッチングが取れていないと回答があった。これに対して尾嶋評議員からは、分野融合研究の精神は非常に良いが、仕組みづくり自体が産業界や著名な先生のプロジェクトに何か合っていない印象があり、ある段階でしっかり総括して、別のもっと関わりやすいプロジェクトにした方が良いのではという意見が述べられた。
 - ・ 原田評議員より、放射光利用の裾野の広げ方について SPRUC の評議員会として話し合わなくてはならない部分であるとの意見があった。また、新利用制度について、文科省から敷居を下げるようにと言われた点が、どの部分に反映されているのか、様々な分野を取り込む仕組みには見えないとの指摘があった。こ

れに対して JASRI 木下利用推進部長は、提示された案は議論の中の一部分であり、申請書の書き方指導やホームページの改変等、初心者でも申請をしやすい方向に向かう改変が進んでいると説明された。

- ・ 文科省から裾野を広げろと指摘された点は、利用のハードルを下げろという意味か、利用と融合のポリシーの延長線上のことを意識されたものかという原田評議員の質問に対して、木下利用推進部長からは、両方であるが、現時点ではハードルを下げる方向の意見が 1 件でているとの回答があった。これに対して原田評議員より、本来、分野の裾野を広げる部分は SPRUC 側で最初に立ち上げたポリシーに従ってやって行くべきとの意見が述べられ、木下利用推進部長は SPRUC だけでなく施設と連携していく必要があると応答した。
- ・ 高田評議員から、以下の意見が述べられた。分野融合は SPring-8-II に向けて新しい分野を生み出し、その循環を進めるとの精神から始まったはずであり、新制度はその内容とは異なっている。そのためにも、分野融合から何が結論として出てきたかを SPRUC として総括をする必要がある。これに対して木村会長より、本当の意味での分野融合の提案が出てきていないため、他施設を含めた議論を SPring-8 へフィードバックを掛けて行くような形で無ければ分野融合に関する有効な案が出てこないのではということで SPB が生まれたと回答があった。
- ・ 水木評議員より、以下の補足説明があった。SPB は SPring-8 で議論する話のアクティビティをどうするか、今まで入ってなかった分野をどう取り込んでいくかということを議論する。Board メンバーはこの事を考えて選んでいる。重要な点は利用推進協議会と SPRUC に壁があることで、それを打ち破るようなことを行っていく必要がある。まず、世の中での問題や課題が何かという点を明確化し、その課題が SPring-8 でできるか否かということを議論し、課題を実行しやすいプラットフォームを提供・運営していくのが SPB だと考えている。
- ・ 高田評議員より以下の意見が述べられた。放射光関係の研究者だけで集まって行っている、SPring-8-II を利用する際に何も変わらない状況になると思う。その様なことを避け、より大きな問題に取り組むためにニーズプル型で考えて行き、新しい分野をドンドンと取り込んだ上で SPring-8-II の様なものに発展させていく必要がある。その取り組みとして、この分野融合があると理解している。分野融合は SPRUC が仕掛けていったものであり、施設と SPRUC が協力をしてこれらのことを考える必要があるのではないかと思う。
- ・ 以上の意見に対して、木村会長からは一度 SPRUC に持ち帰り、幹事会において議論を進めていくとの回答があった。

その他・連絡事項

- 1) 松下幹事より今後のスケジュール (資料 15) の確認が行われた。

以 上